

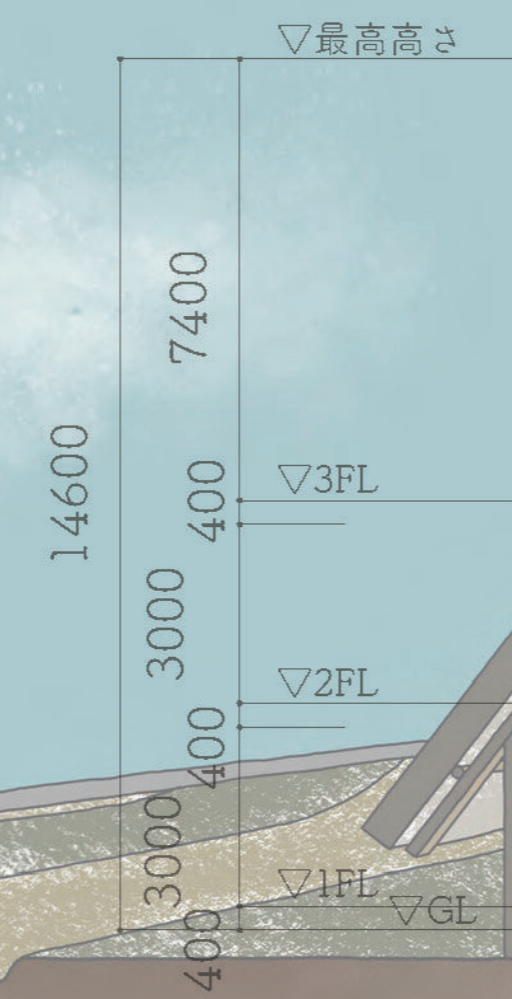
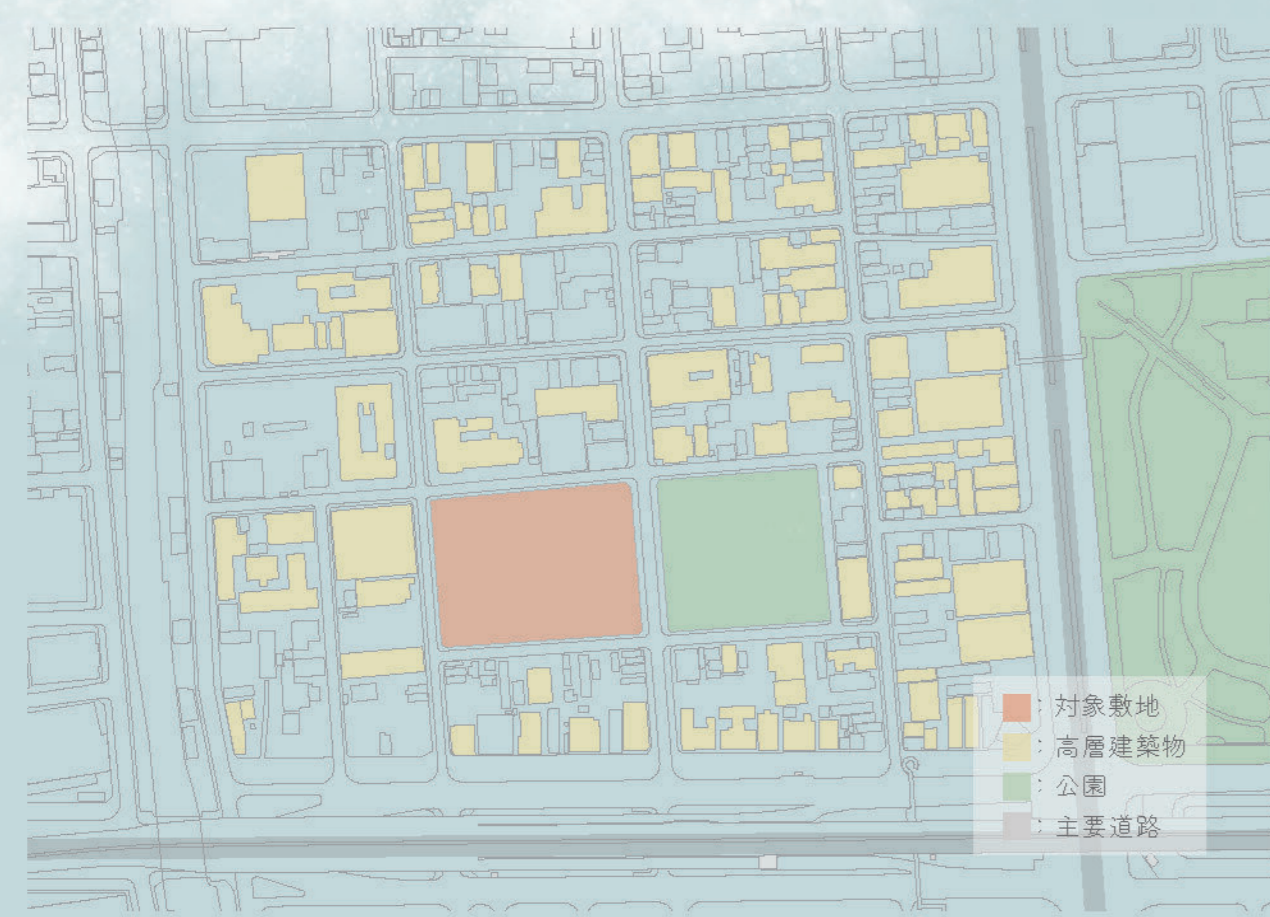
畦道小学校

- 失われゆく伝統建築、保全から生まれる新たな使いみち -

伝統建築でありながら絶滅の危機に面している茅葺屋根。

都市に囲まれた本敷地にどこか懐かしい風景を埋め込むことで伝統を継承し、新たな使いみちが見つかる。
「小学校 × 畑 × 畦道」をランドスケープ的に複合させ、子どもたちの感性を豊かにする学び舎を提案する。

都市に位置する対象敷地



屋根を中心とした建築の内部には風が通りぬけ、層を横断して連続性を生む。

自然や学び、遊びといった子どもたちのアクティビティを「層」を成して織り込むことで、都市に囲まれた敷地に風景をなじませる。

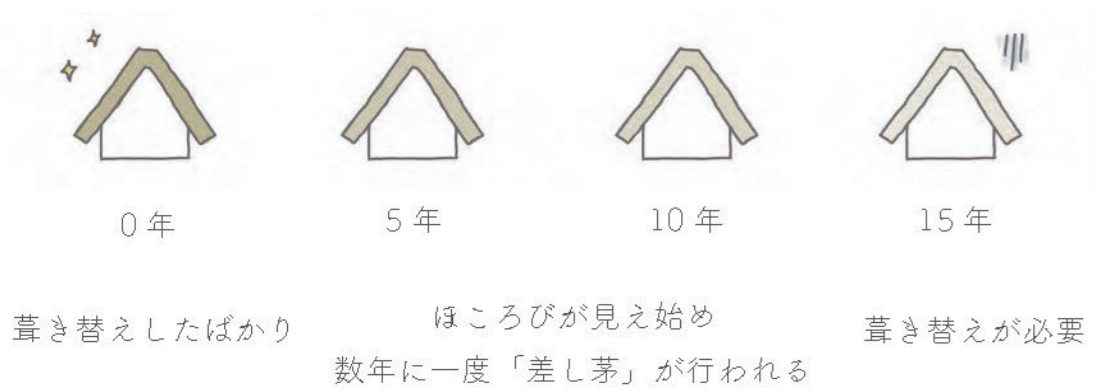
断面図 S=1/150

都市 自然 学び 遊び 学び 都市

01 ダイアグラム

○茅葺屋根と子どものサイクル

茅葺屋根の耐用年数は15年前後と言われている。
雨が降る。鳥がつつく。
15年間で植物である茅葺屋根は変化を続ける。
卒業しても身近に感じることができる小学校に茅葺屋根を採用することで子どもたちが巣立っていく道の間を見守り続ける。



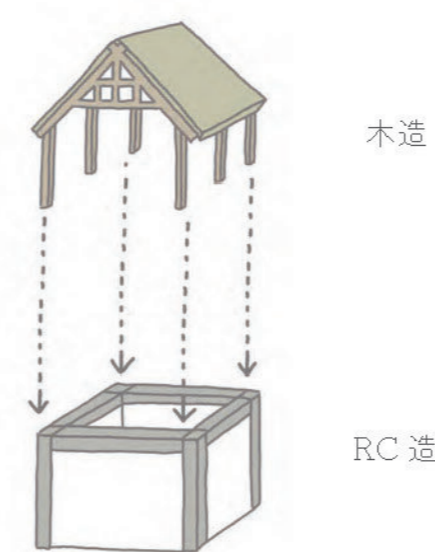
○向かい合う茅葺屋根

校舎が向かい合うことで視線が合い、子どもたちの社会性を育む。
その間には、子どもたちが見守られ安心できる空間が形成される。

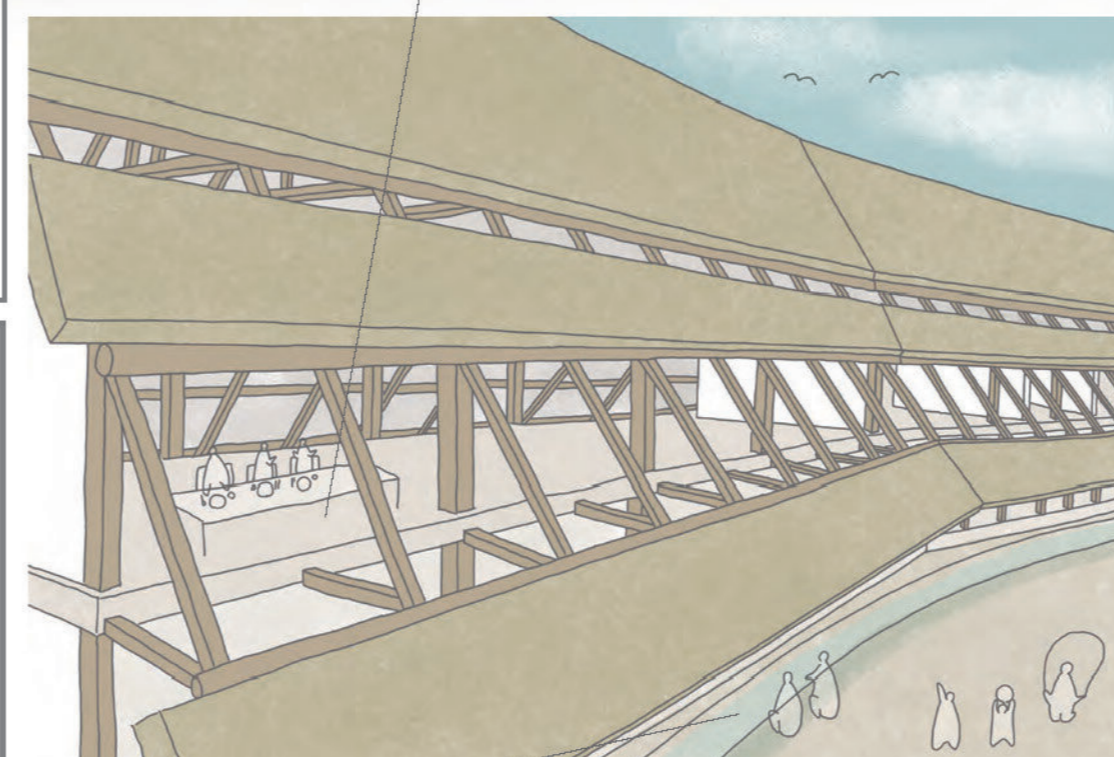


○茅葺屋根と複合構造

現在、日本では防火の観点から茅葺屋根を新築で建てるのが禁じられている。しかし、このままでは茅葺屋根の発展は望めない。そこで複合構造として、建物の主要構造部にRC造を用いる。火災発生時、急速に燃え広がることを防ぎ、避難時間を確保する。

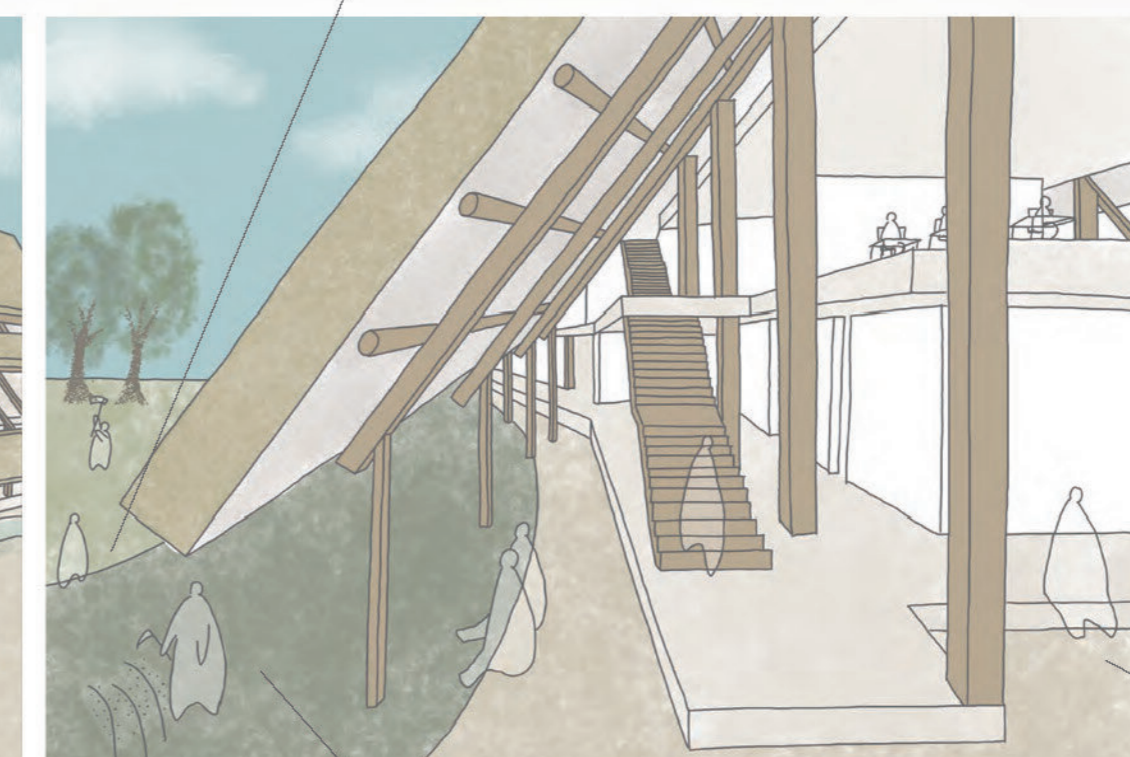


てらす
二階には大きな連続窓が続き光が差し込み、風が通る、テラス空間を作り出す



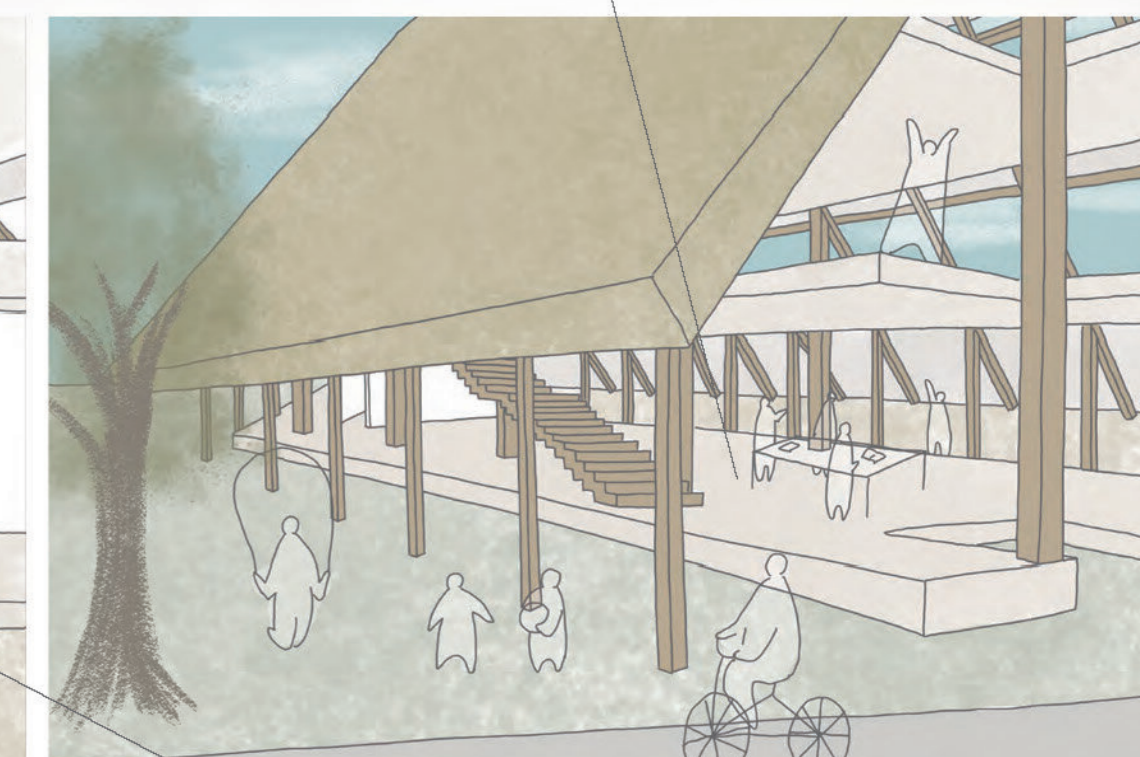
すいろ
学校内にいくつかの水路が流れており水の流れる音をききながらそこに集まる生物を観察する

あぜみち
畑にはさまれた畦道は都会の人々に癒しを提供する



はたけ
毎日通う教室の目の前に畑があり一年を通じて植物の成長を見届ける

きょうしつ
風が通る教室は都市に暮らす子どもたちの憩いの場となる



どま
校舎の入り口は土間になっており畑で付いた土をはらって教室に向かう